

2 円滑な接続の推進

(1) 保育所と小学校の接続

① アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの編成と活用

保育所においては、年長児が小学校の生活や学習に滑らかに適応できるよう、入学までの1年間を3か月毎に区切り、指導目標や活動計画を示したアプローチカリキュラムを編成し、それに基づき実践した。その一例として、9月には小学生に親しみをもち、小学校生活の様子や集団のきまりなどについて知るために、年長児が小学校運動会の練習を見学した。



運動会練習を見学する年長児

スタートカリキュラムには、就学前教育の成果を生かすために、保育とのつながりを意識し、モジュール学習や合科的な授業などを組み込んで実践した。具体的には、一日の流れを説明する時間を朝自習や1時間目に位置付けたり、保育所で行う手遊び歌や読み聞かせを行ったりした。また、4時間目には、継続して給食準備の時間を設定し、全員が繰り返しながら準備のやり方を覚えられるようにした。

さらに、学びをつなぐことを意識し、生活科で雨の日の遊びに作った「サイコロゲーム」を算数科の単元「いくつといくつ」の導入に取り入れ、興味や集中力を高めるような合科的・関連的な授業を行った。児童は二人組で遊ぶ活動をととして、数の分解・合成を理解することができた。チャイムが鳴ると「もう終わり？まだしかなかった。」というつぶやきがあり、集中して取り組んだ様子うかがえた。



算数の導入でサイコロゲームをする1年生

このような取組をととして、1年生は4月末には学校生活のパターンに慣れてきた。

② 交流活動の工夫

ア 生活科「あきとなかよし」での交流

秋を見つけよう(交流)	めざせ秋の遊び名人	秋の遊び大会をしよう(交流)
年長児と1年生が神社で秋を探し、見つけた秋を発表したり五感を使って遊んだりして秋を楽しむ活動を行った。	集めた草木や木の実を使って、どんな遊びができるか教わったり考えたりしながら、遊びを工夫して作った。	年長児を招待して、自分たちで考えた遊びや飾りものを使って楽しませる「秋のゲーム大会」を開催した。
この葉っぱ、ちくちくするよ。さわってみて。	どんぐりで塔ができたぞ。	がんばれ！

ゲーム大会当日、1年生は年長児にゲームのやり方やルールを上手に伝えることができた。年長児は、「楽しかった。あの時の葉っぱが、お魚さんになっていた。」と喜んで釣り上げた魚を持ち帰っていた。年長児から「学校って楽しいな。」というつぶやきが聞こえてきた。

イ 小学校プールでの水遊び交流

昨年度から、小学校のプールで年長児と1年生の水遊び交流を実施している。2年目の今年は、昨年度の反省を踏まえた交流を行い、より充実したものとなった。

平成 25 年 9 月実施



小学校のプールは広くてきもちいい！

- 「小学校のプールは深くて怖い」という印象をもっていたが、小プールに安心し、抵抗なく楽しむことができた。
- お家の人に様子や出来事を話す年長児が多く、交流のよさを感じてもらうことができた。
- つい半年前まで、保育所で一緒に活動していた1年生だが、年長児になかなか声かけられず、積極的な関わりは少なかった。

平成 26 年 7 月実施

大きいシャボン玉ができるよ！



宝のボールたくさんとるぞ！

- 昨年度の反省を生かし、1学期にも交流活動を計画的に設定した。生活科で、夏の遊び（シャボン玉遊び）を年長児に教える活動を行った。交流を重ねることで親しみが増し、交流後「またね。」と互いに笑顔で別れる姿が見られた。
- 1年生は、昨年自分たちがしてもらったことを思い出し、「今年は、ぼくたちの番だよ。」と意識が高まっていた。
- 年長児は、小学校のプールでの水遊びを年中・年少児に教えたり、顔をつけられなかった子が、頑張っただけでできるようになったりするなど、意欲面で成果が大きかった。
- 1年生と年長児でペアを組んで活動したが、1年生は自分だけの活動に夢中になる場面が見られた。

※○は成果、●は課題

ウ 入学後の交流活動

年長児が1年生になった後も、2年生との合同授業を行った。2年生が1年生の手を引き、学校探検をしたり、学校周辺へ春探しに出かけたりした。また、地域の方の協力で、一緒に釜炒り茶づくりの体験も行った。そのことにより、1年生は安心して学ぶことができ、2年生は上級生としての自覚や態度が芽生えた。

踊っているみたい。ピンクでかわいいね。



これが「オドリコソウ」だよ。

1・2年生の春探しの様子

③ アンケートの実施と結果の活用

小学校入学を控えた年長児やその保護者がどこに不安をもち、その原因が何であるのかを知るためにアンケートと実態調査を行った。その結果から、年長児の3分の1以上が9時半以降に就寝していることが分かった。そこで、保育所での「早寝早起き」の呼びかけや、保育所、小学校、中学校合同で「キッズウィーク」に取り組んだ。3月から就寝と起床時刻を徐々に早め、4月には無理なく寝起きができるように取り組んだ家庭もあり、就寝時刻について改善が見られた。（図4参照）

また、アンケートの結果から見えた保護者の不安に対応できるよう、体験入学における保護者への説明内容を工夫した。さらに、入学前には、放課後に小学校職員2名で新入児の家庭を訪問し、健康面での配慮事項や登下校の確認を行うとともに、保護者の不安や期待などの思いを聞く機会をもった。これらの取組により、新入児と保護者の入学に対する不安を軽減することができた。

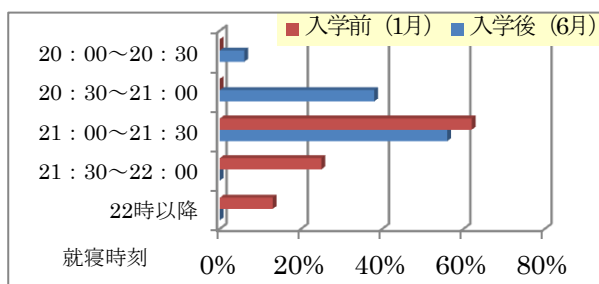


図4 入学前・入学後の就寝時刻の割合